

## 史料・参考文献

### 史料・目録

- 『続史料大成 蔭涼軒日録』臨川書店、一九七八年
- 『加能越古文叢』二十一・二十二、東京大学史料編纂所架蔵謄写本
- 『看聞御記』上・下、補遺二、続群書類従完成会、一九九一年
- 『大日本古記録 建内記』一～十、岩波書店、一九九六年
- 『五八代記 佐和隆研』醍醐寺文化財研究所研究紀要、四、一九八二年所収
- 『古事類苑』一～五十一、吉川弘文館、一九六七年～一九八〇年
- 『続史料大成 齊藤基恒日記』十、臨川書店、一九八〇年
- 『続史料大成 親元日記』十、臨川書店、一九八〇年
- 『続史料大成 武家年代記』十、臨川書店、一九八〇年
- 『醍醐寺新要録』上・下、醍醐寺文化財研究所編、法蔵館、一九九一年
- 『大日本古文書 醍醐寺文書』一～十三、東京大学史料編纂所、一九五五年～二〇〇四年
- 『大日本古文書 醍醐寺文書別集』一～三、東京大学史料編纂所、一九八三年～一九九〇年
- 『大日本古記録 薩戒記』一、岩波書店、二〇〇〇年

- 佐藤進一『日本の中世国家』岩波書店、一九八三年
- 佐藤進一『鎌倉幕府訴訟制度の研究』岩波書店、一九九三年
- 佐藤進一『將軍と幕府官制についての覚書』室町時代 その社会と文化』吉川弘文館、一九七六年
- 佐藤進一『日本中世史論集』岩波書店、一九九〇年
- 佐藤進一『足利義教嗣立期の幕府政治』『法政史学』二〇、一九六八年
- 佐藤進一『足利義満』中世王権への挑戦平凡社、一九九四年
- 佐藤進一他共編『中世法制史料集』I・II・VI岩波書店、一九六五年～二〇〇五年
- 佐藤進一他校注、日本思想大系新装版、『中世政治社会思想』上・下岩波書店、一九九四年
- 設楽薫『史料紹介永享元年何事記録逸文の紹介と研究』『史学雑誌』一〇一八、一九九二年
- 設楽薫『室町幕府の評定衆と御前沙汰』『古文書研究』二十八、一九八七年
- 清水久夫『將軍足利義晴期における御前沙汰』『内談衆と賦』『日本史研究』二〇七、一九七九年
- 下坂守『中世土倉論』『中世日本の歴史像』創元社、一九七八年
- 鈴木江津子『伝存した六通の勘文』『歴史民俗資料学研究』創刊号、一九九六年
- 鈴木江津子『永享年間訴訟制度小考』評定衆と右筆方を中心に、『歴史民俗資料学研究』七、二〇〇二年
- 鈴木江津子『満済准后日記』室町殿と満済、『歴史民俗資料学研究』六、二〇〇〇年
- 鈴木江津子『満済准后日記』心永十八年以前考』季刊『ぐんしよ』六十五、統群書類従完成会、二〇〇四年
- 高橋慎一朗『親玄僧正日記』と得宗被官』日記に中世を読む』吉川弘文館、一九九八年
- 多賀宗集『北条執権政治の意義』後期を中心として』鎌倉時代の思想と文化』目黒書店、一九四六年
- 田中稔『中世の日記の姿』『中世史料論考』吉川弘文館、一九九三年
- 寺嶋雅子『蔭涼軒御倉について』『中央大学大学院研究年報』七、一九七七年
- 富田正弘『中世東寺の祈祷文書について』『古書体系論と宗教文書』『古文書研究』十一、一九七〇年
- 富田正弘『室町殿と天皇』『日本史研究』三一九、一九八九年
- 富田正弘『室町時代における祈祷と公武統一政権』『中世日本の歴史像』創元社、一九七八年

- 『大日本史料』第七編 東京大学史料編纂所、一九二七年～二〇〇四年  
 『改定史籍集覽 北条九代記』一～八、臨川書店、一九八三年  
 『満濟准后日記』上・下、補遺一、続群書類従完成会、一九八九年  
 『改定史籍集覽 室町家御内書案』二十七、臨川書店、一九八四年  
 『増補史料大成康富記』臨川書店、一九六五年

## 著書・論文

- 青山由樹「室町幕府別奉行についての基礎的考察」、『日本古文書学論集』八、吉川弘文館、一九八七年  
 網野善彦『蒙古襲来』上・下小学館、一九九二年  
 網野善彦『中世荘園の様相』塙書房、一九八五年  
 網野善彦『中世東寺と東寺領荘園』東京大学出版会、一九八七年  
 家永遵嗣「足利義満と伝奏との関係の再検討」、『古文書研究』四十一・四十二、一九九六年  
 石井良助「中世武家不動産訴訟法の研究」、『弘文堂書房』一九三八年  
 一倉喜好「政所執事としての伊勢氏の台頭について」、『日本歴史』一〇四、一九五七年  
 伊藤一美校注『建治三年記注釈』文献出版、一九九九年  
 伊藤喜良『日本中世の王権と権威』思文閣出版、一九九三年  
 今谷明『室町幕府解体過程の研究』岩波書店、一九八五年  
 今谷明他編『室町幕府文書集成』上・下思文閣出版、一九八六年  
 上横手雅敬編『中世公武権力の構造と展開』吉川弘文館、二〇〇一年  
 太田順三「將軍義教と御前落居奉書の成立」、『日本古文書学論集』八、吉川弘文館、一九八七年  
 海津一朗『蒙古襲来』吉川弘文館、一九九八年  
 海津一朗『中世の変革と徳政』吉川弘文館、一九九四年

- 寛雅博「内々の意味するもの」、『ことばの文化史』中世四、平凡社、一九八九年  
 寛雅博「得宗・与奪・得宗方」、『ことばの文化史』中世三、平凡社、一九八九年  
 笠松宏至「法と言葉の中世史」、『平凡社選書』一九八四年  
 笠松宏至「仏陀施入之地不可悔返」、『日本中世法史論』東京大学出版会、一九九七年  
 笠松宏至「徳政令」、『岩波新書』一九九二年  
 笠松宏至「室町幕府訴訟制度意見の考察」、『史学雑誌』六十九、四、一九六〇年  
 笠松宏至「中世人との対話」、『東京大学出版会』一九九七年  
 笠松宏至「日本中世法史論」、『東京大学出版会』一九九七年  
 川添昭二「弘安八年筑前国岩門合戦について」、『九州史学』十六、一九六〇年  
 木藤才蔵「二条良基の研究」、『桜楓社』一九八七年  
 桑山浩然「室町幕府経済機構の一考察」、『史学雑誌』七十三、九、一九六四年  
 桑山浩然「室町幕府引付史料集成」上・下、近藤出版社、一九八〇年  
 桑山浩然「中期における室町幕府政所の構成と機能」、『日本社会経済史研究』中世編、吉川弘文館、一九六七年  
 桑山浩然「足利義教の登場と御前沙汰」、『論集中世の窓』吉川弘文館、一九七七年  
 小泉聖恵「徳宗家の支配構造」、『お茶の水史学』四〇、一九九六年  
 五味文彦「体系日本の歴史五」、『鎌倉と京』小学館、一九八八年  
 五味文彦「公方」、『ことばの文化史』中世三、平凡社、一九八九年  
 齋木一馬「恐怖の世」、『嘉吉の変の背景』、『戦乱と人物』吉川弘文館、一九六八年  
 桜井英治「室町人の精神」、『日本の歴史十二』講談社、二〇〇一年  
 笹本正治「中世の災害予兆」、『吉川弘文館』一九九七年  
 佐藤進一「室町幕府開創期の官制体系」、『日本中世史論集』岩波書店、一九九〇年  
 佐藤進一「他共著」、『日本中世史を見直す』悠思社、一九九四年  
 佐藤進一「室町幕府論」、『日本中世史論集』岩波書店、一九九〇年

- 富田正弘「中世東寺の寺院組織と文書授受の構造」『資料館紀要』八、一九八〇
- 鳥居和之「室町幕府の訴訟の受理方法 義教・義政期を中心に」『日本史研究』三二一、一九八八年
- 中田薫「鎌倉室町幕府の官制について」『法制史論集』三、岩波書店、一九四三年
- 永原慶二「日本における封建国家の形態」『日本封建制成立過程の研究』岩波書店、一九六一年
- 七海雅人「鎌倉幕府御家人制の展開」吉川弘文館、二〇〇一年
- 新田英治「室町時代の公家領における代官請負に関する一考察」『日本社会経済史研究』中世編、吉川弘文館、一九六七年
- 新田一郎「問注所氏小考 太田氏を中心に」『はるかなる中世』八、一九八七年
- 新田一郎「日本中世の社会と法」東京大学出版会、一九九七年
- 橋本初子「三宝院賢俊僧正日記 貞和二年」『醍醐寺研究紀要』十二、一九九二年
- 藤岡大拙「禅院内における東班衆について」『日本歴史』七、一九五八年
- 古沢直人「鎌倉幕府と中世国家」校倉書房、一九九一年
- 細川重男「鎌倉政権得宗専制論」吉川弘文館、二〇〇〇年
- 細川武稔「室町幕府年中行事書にみえる僧侶参賀の実態」『遙かなる中世』十九、二〇〇一年
- 細川武稔「足利將軍家護持僧と祈祷」『日本歴史』六六四、二〇〇三年
- 本郷和人「満濟准后日記と室町幕府」『日記に中世を読む』吉川弘文館、一九九八年
- 村尾元忠「足利義持の神仏依存傾向」『中世日本の諸相』吉川弘文館、一九八九年
- 百瀬今朝雄「將軍と廷臣」週刊百科『日本の歴史』十三、中世Ⅱ 三、朝日新聞社一九八六年
- 森茂暁『南北朝期公武関係史の研究』文献出版、一九八四年
- 森茂暁『満濟』ミネルヴァ書房、二〇〇四年
- 山口隼正「鎌倉御家人制の性格」『日本の社会文化史』講談社、一九七四年
- 山家浩樹「室町幕府訴訟機関の將軍親裁化」『史学雑誌』九十四 十二、一九八五年
- 山家浩樹「室町幕府の賦と奉行人」『中世の法と政治』吉川弘文館、一九九二年
- 山家浩樹「申次の奉書」『はるかなる中世』八、一九八七年

和田英松新訂『官職要解』講談社学術文庫、一九九〇年

渡辺晴美「北条貞時政権の研究」『中央史学』七、一九八四年

渡辺世祐『関東中心足利時代之研究』改訂版新人物往来社、一九九五年